

vol.
610

Plus ultra!!



公益社団法人郡山青年会議所 2023年度スローガン

Challenge a new era, and change the future!

～新しい時代に挑戦しよう、私たちが夢描く最高の未来へ～

【はじめに】

私は二〇一八年に事業承継のために東京から郡山へ戻り、翌二〇一九年に郡山青年会議所に入会しました。OBである父と事業に参加したことがあったので青年会議所の存在は知っていましたが、経営者の集まりという漠然とした認識であり、具体的に何を行っている団体なのかはわかりませんでした。そのような認識のなかでの入会でしたが、先輩方から多くのことを教えていただき、また、先輩方が青年会議所運動に邁進する姿を追いかけながら取り組んでまいりました。やがて役職を得る機会をいただき、まちづくりやひとつの経験を通して自分自身が大きく成長したと実感することができました。まちのため、ひとのために真剣に考えることのできる志を同じくする仲間助けられ、自分の価値観や運動を肯定的に捉えていただき、また、組織の伝統や文化を知ること、自分の思考に変化をもたらし、広い視野で物事を考えることができるようになっていきました。そして本年は福島ブロック協議会へ役員として出向する機会をいただき、様々な地域の仲間が地域や組織をより良くするために熱量を持って取り組んでいる姿を間近で見ると、私もそのような人間になりたい、LOMを牽引しメンバー一人ひとりが輝く組織づくりを行いたいという情熱が心の奥底から沸々と湧き上がってまいりました。心を尽くして行動すること、情熱をもってまちづくりやひとづくりに携わることこそが、郡山の未来を牽引し、明るい豊かな社会を実現して行く力になると確信しています。



公益社団法人郡山青年会議所
二〇二四年度 理事長立候補所信

二〇二三年度 副理事長 織田 陵平

【理念共感型の組織へ】

郡山青年会議所には共通の理念やビジョンがあります。何のために、誰のために存在し、運動を行っているのか。何を大切に、何を現実していくのか。会員一人ひとりがそれらを深く理解し発信することこそが、目的を軸に据えた理念共感型の組織となり、会員拡大へつながっていくと考えます。人は共感や共鳴を得ると動き出します。「地域の課題を解決し、社会を変革するには、どうしてもあなたの力が必要です。」そう伝えられる組織こそが我々が望む組織ではないでしょうか。私たちは、自身の運動を理解し誇りを持ち、明るい豊かな社会の実現のために行動をしていかなければなりません。そして、私たちには家族があり、仕事があります。限られた時間を青年会議所運動に注いでいるからには、なぜ運動を行っているかを明確化し、まちの発展のために行動していることを誇りに、自身の成長を見せることで感謝を伝えなければなりません。そのためにも、理念を自身へ浸透させ同志を増やすことが、明るい豊かな社会の実現、即ち、多様性と持続性があるまちの実現へとつながり、家族や会社にも良い影響をもたらすと考えます。

【心を込めた情報発信】

SNSやYouTubeなどの発達により、誰もが自由に発信を行える世の中となりました。情報過多の時代において真に役立つ情報を自身で取捨選択しなければならぬ状況のなかで、郡山青年会議所の情報発信を効果的に行うためにはどのような方法があるのでしょうか。これまで



様々な工夫を凝らして発信を行ってききました。しかし、情報発信はあくまでも手段であり、情報発信の真の目的は、継続的なコミュニケーションを行い信頼関係を構築することにあります。無機質に発信するだけではなく、心を込めて交流を図り郡山青年会議所の魅力を伝えることがブランドデザインとなり、効果的な発信につながります。また、郡山青年会議所の運動・活動の中心をより可視化し、会員一人ひとりにスポットを当てながら地域に発信していくことで、青年会議所の存在が身近になると考えます。理念やビジョン、日頃の運動や活動を効果的に発信することで、我々の運動に共感するまだ見ぬ同志を発掘できる可能性があるのです。

【地域の宝でまちに活力を】

郡山市は二〇〇八年に「音楽都市宣言」を行い、今日まで音楽という地域の宝を磨き上げてきました。郡山市が音楽都市宣言を行った背景には、様々な困難を市民が音楽の力を借り乗り越えてきたという歴史があります。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響や度重なる地震による施設の損壊により、市民が音楽を身近に感じる機会が減少しましたが、新型コロナウイルス感染症も五類感染症に移行し、次第に音楽の灯が復活しています。「音楽都市郡山」は現在「楽都郡山」となり、郡山市が全面に打ち出しているブランドとなっています。しかし、「楽都郡山」が具体的にまちにどのような効果をもたらしているのか知らずにいる市民も一定数存在

しているのです。「音楽都市宣言」から十五年以上が経過し、「楽都郡山」は浸透しているのか、今一度考ええる時期を迎えているのではないのでしょうか。郡山市の特色ある文化に根差した魅力の発信とシビック・プライドの醸成を図り、市民が積極的に郡山市のブランドやイメージを対外に広めていくことで、人々の盛んな交流を促進し活気溢れる明るい豊かな「楽都郡山」へつながっていくと考えます。

【未来ある子どもたちのために】

まちの発展を考える際には、そのまちに住まう子どもたちの未来も同時に考えていかなければなりません。近年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。多様性が叫ばれ、学びの在り方などが新たな局面を迎えている時代のなかで、子どもたちが将来にわたり郡山を愛し自立して行くためには、まちの歴史や特性をより深く理解し愛郷心を育むことが大切です。私が生きた頃の頃、大人たちは地域コミュニティを活かし様々な体験をさせてくれました。そこで地域のことを教えてもらい、郡山はもちろん県内の様々な場所へ行きそれぞれの歴史や特性を教わったことが原風景として記憶に刻まれており、結果として愛郷心も芽生えました。子どもたちの夢と希望が実現できる郡山を創造していくことが私たち責任世代の使命であり、子どもたちの健全な成長が地域へ活気を生み出し、まちのさらなる発展へとつながっていくのです。

【結びに】

来年、郡山市は市政施行百周年を迎えます。新しい百年を迎えるにあたり、郡山青年会議所の運動もより広い視野をもち様々な課題に取り組んでいく必要があります。青年会議所は単年度制であるからこそ、計画的に運動を展開し、まちのため、ひとのために英知と勇気と情熱をもって行動していかなければなりません。

私は郡山が大好きです。郡山青年会議所に入会し多くの学びを得ることで、そう言えるようになりました。

私の心に変革をもたらしてくれた郡山青年会議所への誇りを胸に抱き、先輩方が紡いでこられた郡山青年会議所の歴史と伝統の一端を担えることに感謝と気概を持ち、理念に基づく明確なビジョンのもと運動を展開することで、誰もが誇れるまち郡山を創造することを誓い申し上げます。立候補所信とさせていただきます。

公益社団法人郡山青年会議所

2024年度理事長候補者 織田 陵平君 プロフィール

令和5年7月15日現在

氏名	織田 陵平 (38歳)
生年月日	1985年5月18日
会社名	株式会社アドバンス企画 (看板・広告業)
役職	代表取締役
住所	〒963-8061 郡山市富久山町福原字釜沼 4-1
TEL	024-943-2289
FAX	024-943-2250
最終学歴	2010年3月 東邦音楽大学 卒業
職歴	2018年4月 株式会社アドバンス企画 入社
J C 歴	2019年 入会 総務委員会 委員
	2020年 まちづくり委員会 委員
	2021年 まちづくり委員会 委員長
	2022年 総務委員会 委員長
	2023年 副理事長
J C 出向歴	2020年 東北地区協議会 総務広報委員会 委員
	2023年 福島ブロック協議会 県南エリア担当副会長



第二十六回 わんぱく相撲 ごおりやま場所

五月十四日(日)、「第二十六回わんぱく相撲ごおりやま場所」が郡山相撲場にて開催されました。わんぱく相撲ごおりやま場所は、郡山青年会議所と郡山相撲協会との共催による、小学四年生から小学六年生を対象とした相撲大会です。

当日は晴天に恵まれ、元気がつぱいのわんぱく力士たちが手に汗握る熱戦を繰り広げました。また、相撲を通じて相手を敬う心や相撲文化を通しての礼儀作法等を学び、勝ち負け以上に大切な精神的成長の機会となりました。手形を収めた色紙が記念品として手渡されることも、表彰式では、入賞者が賞状とトロフィーを手に清々しい笑顔を浮かべておりました。

五月例会並びに 体験交流会

五月二十一日(日)

郡山青少年会館にて「公益社団法人郡山青年会議所二〇二三年度五月例会並びに体験交流会」がグリーン・コミュニティ「ごおりやま」が開催されました。例会では理事長より挨拶があり、メンバーの家族へ向け、青年会議所についての説明や子ども達や市民の為に活動している旨をお話されました。また、メンバーに向け「このまちがどのような問題を抱えているか、調査して事業を構築してほしい」と調査の重要性を述べられました。

その後、各委員会の会務報告や、各出向者からの出向者報告が行われました。



本年福島ブロック協議会に顧問として出向している柳沼勝恵君が次年度福島ブロック協議会会長に立候補することが発表され、意気込みと会員への協力について述べられました。体験交流会では「グリーン・コミュニティ「ごおりやま」と銘打ち、福島県環境創造センター交流棟コミュニティ福島様をお呼びして再生可能エネルギーや環境問題、リサイクルについて楽しく学びました。

風や光の力で発電する体験や、バイオマス発電に使われる間伐材や木材チップなどを使った木製キーホルダー製作体験をしました。また、展示ブースではアルミ缶やペットボトルをリサイクルして再利用する工程や、お米などの植物由来の有機原料

をプラスチックに活用するなどの持続可能な社会実現に向けた動きが紹介されました。普段とは異なる雰囲気の中、会員が互いの新たな面を発見し、より一層親睦を深める機会となりました。



五月度のフォトコンテストの結果が発表

【グッドスマイル賞】 監 事 柳沼 勝恵君

【育LOM賞】 監 事 柳沼 勝恵君

副理事長 矢吹 瞬君
委 員 増子 千晶君

【月間事業賞】 委 員 土屋繁太郎君

【特別賞】 委 員 菅 洋滋朗君

第六十二回 「久米賞・百合子賞」 審査員顔合わせ会

五月二十三日(火)郡山ビューホテルアネックス三階雲水峰にて第六十二回「久米賞・百合子賞」審査員顔合わせ会が開催されました。

「久米賞・百合子賞」審査員顔合わせ会では、芝田実行委員長の挨拶から始まり、審査員長の選出では溝井 勇様が審査員長となり、本年度の意気込みなどを

お話しいただきました。また、本年度からは郡山市立緑ヶ丘中学校から新たに緑川 道子先生を詩の審査をご担当いただくこととなりました。その後は議事に移り、開催要項及び年間スケジュールや応募要項、審査方法などを会議いたしました。各審査員の先生からは活発に意見が出て実りのある会議となりました。未来を担う子供たちの創造力や表現力を育む充実した機会となるよう審査員の皆様と誓い合い、閉会となりました。

第二十六回 わんぱく相撲 福島ブロック大会

二〇二三年六月十(土)、会津若松市のあいづ相撲場にて「第二十六回わんぱく相撲福島ブロック大会」が開催されました。

五月十四日に開催された「第二十六回わんぱく相撲ごおりやま場所」にて入賞した各学年上位二名までのわんぱく力士たちは郡山市の代表として出場しました。

当日は雨天予報でしたが、開催前には天気も回復し、日々練習を重ねてきたわんぱく力士達の白熱した取り組みを後押ししていました。

取り組みの結果、郡山から男子四年生の部から鈴木礼煌君(行徳小)、五年生の部からは佐藤悠翔君(多田野小)、六年生の部から片柳雄人君(柴宮小学校)の計三名が、全国大会の出場切符を手にし、喜びをあらわにしていました。



第53回 福島ブロック大会 in 猪苗代

七月一日(土)から二日(日)まで、猪苗代町にて開催された「第五十三回福島ブロック大会 in 猪苗代」に参加しました。

一日目は、第五回会員会議所会議が行われ、監事 柳沼勝恵君の二〇二四年度福島ブロック協議会会長立候補が審議可決されました。

総務広報委員会へ委員として出向している、杉島健太君が会場設営や写真撮影など担いを務めていました。

郡山青年会議所メンバーもオプザーブとして参加し、緊張する空気の中審議可決の瞬間を見守りました。

その後、天神浜オートキャンプ場で行われた「極上まるしえ」では福島県内の飲食店やアートのなどに通じるブースが多数出展し、メインステージでは猪苗代中学校吹奏楽部や山猿氏などの演奏で大盛況となりました。

福島の未来創造委員会へ副委員長として出向している、望月俊弥君が「防災減災でニッコリ」伝えて、遊んで、学ブラス」という体験ブースの全体を監督しており、設えたアトラクションに参加した市民の方々が楽しそうに、また真剣に防災クイズに答えている姿を見て喜びを露にしておりました。

夜の部では大懇親会が開かれ、夕日が猪苗代湖に沈むのを眺めつつLOMの垣根を超えた仲間たちと笑い合いながら懇親を深めました。

二日目は、猪苗代町体験交流館(学びいな)にてアカデミー委員会による「福島ブランド」発表会、「地域資源サミット」、「記念式典」が開催されました。



アカデミー委員会では、高橋祐樹君、石黒恵太郎君が委員として出向しており、冒頭のセレモニーを石黒恵太郎君が担当し、緊張している中堂々と発声しておりました。

各塾内で決めた担当地域の課題に向き合いながら、福島ブランドの確立についてこれからの展望やプランを発表し、高橋祐樹君がリーダーを務めている松本塾が「福島ブロック大会発表賞」を受賞しました。

また、その後に行われた地域資源サミットではブロック大会実行委員会へ委員として出向し



ている、紀乃知佳君が司会担当として真剣な眼差しで壇上にて活躍しておりました。

記念式典では、二〇二四年度福島ブロック協議会会長となる柳沼勝恵君が、来年に向けた熱い想いを発信しました。

本ブロック大会を通して多くの知見を得ることができ、本年度の大会テーマでもある「リジエネラティブ」を意識して行動できる大会となりました。



2024年度 福島ブロック協議会 会長就任意気込み



地域のために挑戦するLOMやメンバーを全力でサポートしながらも協議会としても挑戦し続ける一年にしてまいります。二〇二四年度も福島ブロック協議会をどうぞよろしくお願いいたします。

柳沼監事プロフィール

委員会・役職	西暦	出向先・配属・役職
入会	2013	
広報委員会 委員長	2015	
会員開発委員会 委員	2016	東北地区協議会 事務局次長
総務委員会 委員長	2017	
会員開発委員会 委員	2018	東北地区協議会 総務委員会 委員
事務財政局 特別局長	2019	日本青年会議所 サマーコンファレンス運営特別委員会 委員
副理事長	2020	東北地区協議会 東北青年フォーラム運営委員会 総括幹事
理事長	2021	
直前理事長	2022	東北地区協議会 会務担当副会長
監事	2023	福島ブロック協議会 顧問

二〇二三年度福島県予選野球大会

六月十日(土)、さつき公園第一野球場にて二〇二三年度福島県予選野球大会が開催されました。

郡山青年会議所は初戦、昨年の優勝LOMであるいわき青年会議所と対戦しました。

結果は一回戦敗退となったものの、昨年の優勝チーム相手に一丸となって健闘しました。

決勝はいわき青年会議所と白河青年会議所が4-4の大接戦となり、じゃんけんのでいわき青年会議所が昨年引き続き優勝しました。

郡山すりこぎクラブが目標としていた楽天スタジアムのマウンドに立つことは残念ながら叶いませ



んでしたが、試合や練習を通して会員同士の親睦を深めることが出来ました。

	1	2	3	4	5	6	R
いわき	4	0	0	0	0	0	4
郡山	0	0	1	0	1	0	2



六月例会

六月二十二日(木)郡山市郡山公会堂にて二〇二三年度六月例会が開催されました。

理事長挨拶では、郡山青年会議所ではなぜ単年度制をとっているのかについてお話されました。①



成長の機会を与えるため ②責任感を持たせるためである。本当の失敗とは対象者を集められなかったことでも、目的を達成できなかったことでもなく、何もしないということ。経験のない事業や役職にどんどんチャレンジし、失敗を経験してほしい。」と呼びかけられました。その後、各委員会の会務報告が行われ



ました。青少年育成委員会の会務報告では、郡山から三名のわんぱく力士が進出したわんぱく相撲全国大会に向け、出席者全員で力強くシュプレヒコールを上げました。



各出向者からの出向者報告では、七月一日から七月二日に行われる福島プロック大会in猪苗代や七月二十二日から七月二十三日に行われるサマーコンファレンス2023のPRが行われ、シュプレヒコールの合唱や各事業の案内が行われました。最後にすりこぎクラブより六月十日に行われた二〇二三年度福島県予選野球大会と、今後の活動について報告がありました。六月度のフォトコンテストの結果が発表され、

- グッドスマイル賞**
委員 紀乃 知佳 君
- 【育LOM賞】**
委員 渡邊千代子 君
- 【月間事業賞】**
委員長 大原 慶大 君
- 【特別賞】**
委員長 大越 惇平 君

が選ばれ、それぞれの受賞者に賞が贈られました。本年度の活動も半分が終わり、残りの活動に弾みをつける例会となりました。

郡山青年会議所 第二回JC説明会

六月二十三日(金)、清水台地域公民館にて「JC説明会」を行いました。本年度第二回目となる今回の説明会には七名の青年経済人の皆様にご参加いただきました。

説明会では芝田理事長より挨拶があり、「我々は人々の行動や意識を変え、まちをより良くする運動を行っています。説明を受けて是非一緒に活動したいと思っただけの方は、我々の仲間として厚く歓迎いたします」と述べられました。



次に、持続可能な組織開発委員会委員長 大越惇平君よりJC概要・活動紹介が行われました。JCとはどのような団体か、入会して何が得られるのか、どのような活動を行うのかについて説明があり、「まちをこのまちに住まう我々が良くしたい。明るい豊かな社会を築き上げようとしている団体です。是非とも志を同じくして、一つの目的に向かって活動を一緒にしませんか」と、呼びかけられました。

我々現役メンバーにとっても、これまでの活動や想い、理念について振り返る機会となりました。



三井陽一郎氏講演会「JCのあるべき姿とやるべきこと」

六月二十四日(土)



郡山市音楽・文化交流館ミューカルがくと館中ホールにて、公益社団法人黒部青年会議所OBである三井陽一郎先輩をお招きし、「三井陽一郎氏講演会」

J Cのあるべき姿とやるべきこと」と題した郡山青年会議所メンバーへ向けた講演会を開催しました。

三井先輩は、二〇一四年度公益社団法人黒部青年会議所理事長、二〇一七年度公益社団法人日本青年会議所国史教育委員会委員長、J C卒業後にJ C I日本外部アドバイザーを務められ本公演はJ Cの本質について語っていただきました。

次年度体制や郡山青年会議所のメイン事業が動き始める時期に「J Cのあるべき姿となすべきこと」と言う題材を切り口に、当団体の本質に触れ、今の社会の流れを考慮した客観的な視野で考える青年会議所について講演していた



いただきました。

その中で筆者が一番胸に残ったのが、「委員長は理事長と会社からメンバーをお預かりしている身である、しっかりと成長を促してお返しすることを考えることが大切だ」という言葉が何よりも胸に突き刺さり、自分を見つめ直す機会となりました。

講演後、インプット、アウトプットの大切さと言う観点からグループディスカッションを行い講演内容についてそれぞれの感想や考え方をグループ内で話し合い、まとめた意見を各グループの代表が発表し三井先輩に講評いただきました。

講演していただいた内容をメンバー一同共有し、二〇二三年度残り半年間のJ C運動・活動のあり方や、来年度以降にも活かせる事業となりました。



わくわくチャレンジ キャンプ事前説明会

七月十五日(土)



郡山市労働福祉会館三階大ホールにて、八月に予定しているわくわくチャレンジキャンプの事前説明会が行われました。本事業は青少年育成委員会のメイン事業となる市内小学四年生から六年生までを対象としたキャンプ事業で、当日は事前申し込みをいただいた方を対象に説明会が行われました。

趣旨説明に始まり、キャンプのしおりに沿って当日のスケジュール確認や注意事項の確認を行いました。

次にキャンプ当日に参加される子供たちの班決めや自己紹介などが行われ、実際当日の班となる子供たちで自分達のチーム旗の作成を行いました。子供たちは活発で無邪気な意見を交わしながら、キャンプ当日への期待に胸を膨らませた様子でした。



わんぱく相撲 全国大会

七月三十日(日)東京の両国国技館にて「第三十八回わんぱく相撲全国大会」が開催されました。郡山からは福島ブロック大会を勝ち上がった三名の選手が代表として前日の二十九日から参加し、翌日の入場行進のりハーサルを入念に行うとともに、秀ノ山親方の講和や甲山親方による実技指導に参加しました。その後宿泊先となった出羽海部屋にて他地域の出場者や現役力士と親睦を深める貴重な経験をすることができました。

大会当日は、全国各場所を勝ち抜いたわんぱく力士が一堂に会し熱い取り組みが繰り広げられました。郡山から出場した子どもたちも元気いっぱい取り組みを披露してくれました。

郡山からの出場選手大会結果

- 四年生の部 鈴木 礼煌君(行徳小学校)二回戦敗退
- 五年生の部 佐藤 悠翔君(多田野小学校)二回戦敗退
- 六年生の部 片柳 雄人君(柴宮小学校)初戦敗退



サマーコンファレンス2023

七月二十一日から二十三日まで「サマーコンファレンス2023」が「GROWTH EXPO」でできなかったことができるようになる。そしてみんなの夢を次のステージへをテーマにパシフィコ横浜にて開催されました。



初日となる二十一日は、東北地区ゼミナール特別委員会圓谷紀幸委員が出向する東北地区協議会主催の東北地区ナイトに参加しました。東北青年フォーラム in 北上のPRでは元気に呼び掛けをされていました。

二日目は「オーブンニングフォーラム」Lead the World「世界を魅せよう」に参加し、本田技術工業株式会社取締役会長である倉石誠司氏がブランドスローガン「The Power of Dreams」を通じて世界へのアプローチや現在の本田技術工業の動き、世界に挑戦し続ける意欲や成功に至った経験について講演なされていました。その後、国際連携会議議長 吉田謙佑氏との対談では夢の実現についてや本年度会頭 麻生 将豊 君の掲げる「日本の魅力で世界を席巻しよう」という題材で対談されることが出来ました。



その後、副委員長として久保田雄大君、小幹事として土屋繁太郎君、委員として菅洋滋朗君が出向している地球環境委員会を訪問し、開催している「GROWTH PARK」に参加しました。

GROWTH PARKでは、「家族みんなが、夢になれる場所」をコンセプトに「MAN AND E」「ASONDE」「TABETE」の三つのブースに分かれており、災害体験や建築体験、謎解きPARKなど大人も子供も一緒に学べるブース(MAN AND E)、昔遊び体験や段ボー

ル迷路など子供が夢中になるブース(ASONDE)、日本各地の食べ物屋台として出店し大人も子供も楽しめるブース(TABETE)がありました。

外にも「ASONDE」ブースがあり、スライダーなどで遊び、元気に走り回る子供たちの姿に日本の未来は明るいと感じることが出来ました。

夜は(社)奈良青年会議所との合同 LOM ナイトが開催され、京都会議以来の対面を喜びながら杯を酌み交わしました。次は郡山のうねめ祭りでおおうと固く誓い幕を下ろしました。

最終日は、組織フォーラム「会頭緊急会見」協議会つて本場に必要の！」に参加しました。麻生会頭が自ら矢面に立ち、「ブロック協議会は LOM に対し最も近い存在であるが、はたして地区協議会が必要なのか？」という疑問にメスを入れる斬新なフォーラムとなりました。第一部では現役理事長の中から公募により選ばれた理事長三名と LOM が協議会に抱くりアルな声や疑問について熱く語り、第二部ではそれ等の疑問に各地区協議会会長が今実際に行っている手法や今後改善していく考え、課題について語りました。実際に地区の必要性とそれに対する協議会の在り方を考える大変貴重な時間となりました。

また、その後に行われた「クロージングフォーラム」僕の国は平和だからと振り返りもしなかった」では、JCCPM 株式会社取締役 瀬谷ルミ子氏とテロ紛争解決スペシャリスト 永井陽右氏を迎え、平和とは何か？平和ってどこから？など平和についての想いを語られました。犯罪や戦争はニュースになるが、平和はニュースにならないや日本は平和だからと対岸の火事を見て見ぬふりをし続けていて



七月例会

七月二十日、郡山ビューホテルアネックスにて七月例会が開催されました。

理事長挨拶では、「青年会議所の運動活動のできる今が自分を確立していき、社会などにおいて信頼できる人たちと仲を深めていく時期であり、本当に信頼できる人と関わることでできる大切な時期である」とドイツの科学者 エリク・ホーンプルガー、エリクソン氏の言葉を引用し、青年会議所運動・活動のできる四十歳までの今この瞬間が大切であるとお話がありました。



その後は、各委員会による会務報告、出向者による出向者報告が行われました。

サマーコンファレンス2023でブースを出展する地球環境委員会に出向している久保田雄大君、土屋繁太郎君、菅洋滋朗君からは出展するブースの内容やPR、現状の委員会の動きについてお話がありました。各委員会、出向者共に開催された事業への御礼やこれから始まる事業参加の依頼など、上半期も終わりを下半期に向けた活発な報告となりました。

七月度のフォトコンテストの結果が発

いいのだろうか？」という魂を震わされる言葉を聞き、日本がどうあるべきなのか、自分がどうあるべきなのかを改めて考える貴重な機会となりました。

今回のサマーコンファレンス2023に参加し、身近にいる子供の将来を本気で考えることや世界で戦うこと、組織に真剣に向き合うことや世界平和について何ができるかなど、本気で考え熱く語る方々のセミナーを聞

表され、

いて姿勢を見ることで、改めて世界は広いと視野を広げられたと感じました。

また、麻生会頭は「日本の魅力で世界を席巻しよう」とスローガンを掲げておりますが、サマーコンファレンス2023で動くスタッフやセミナー講師の方々が本気で語る姿勢がまさに「日本の魅力」に該当する一つだと感じられる学びの多いサマーコンファレンス2023となりました。

【グッドスマイル賞】

委員 斎藤 一紀君

【育LOM賞】

委員 黒田 容君

【月間事業賞】

室長 江崎 健太君

【特別賞】

委員長 佐久間 郡君

が選ばれ、それぞれの受賞者に賞が贈られました。

その後、多くのOBの先輩方にご臨席を賜る中、「二〇二四年度理事長選挙」に当選した織田 陵平 副理事長に当選証書が授与されました。織田 陵平 次年度理事長候補者は「心を尽くして行動すること。情熱をもってまちづくりや人づくりに携わることこそが郡山の未来を牽引し、明るい豊かな社会を実現することだと確信している」と熱く語られました。授与式の後は、次年度専務理事候補者である江崎 健太 君の発表がありました。

次年度理事長候補者の熱い挨拶に、対外事業や出向先の事業が活発化する今この瞬間も大事にしながらも、私たちが夢描く最高の未来へ向け、メンバー一同期待に胸膨らむ七月例会となりました。



工藤勇一氏 講演会

来場者インタビュー

このページは、3月25日に開催された「工藤勇一氏講演会」にてご来場いただいた皆様から頂戴した意見を掲載しております。

郡山青年会議所が一般市民をお招きした事業で、率直な意見をその場で聞かせていただきました。広報誌のスペース上、広報誌5月号に掲載できなかった分を記載しております。



介護士50代女性

元々、ある事がきっかけで子育てに興味を持ち、色々な講演会に参加していました。

手をかければかけるほど生徒は自立できなくなり、うまくいかないと誰かのせいにして主体性を失い自分も他人も嫌になる。自律した生徒を育成するためには、失敗が許される環境づくりそして、3つの言葉掛け、「どうしたの？君はどうしたいの？何を支援して欲しいの？」と自己決定の積み重ねで自己肯定感が高くなると言う事を改めて認識させていただきました。自己肯定感を高く持つ事によって人生色々変わっていきませんかと思えました。そして、私たち大人がまず変わらなくてはならないと思えました。素晴らしい講演会ありがとうございました。

保育士50代女性

職業柄というのがありますが、小学生以前の子育て(保育)にはどう接すればよいのだろうと考えさせられました。ですが、未就学時であっても3つの言葉かけをし自己決定の積み重ねをすることで自己肯定感のある子どもに育つと思えました。「教える」から「自分で学ぶ」の環境作りを日常に取り入れながら今後仕事を心がけようと思えます。先生のお話は大変ためになり勉強になりました、ありがとうございました。

飲食業30代男性

私にも小学生になっただけの子供がいるのですが、対話を大事にしようといつも心がけています。その対話に、3つの言葉かけを今後意識してみようと思えました。貴重な講演会ありがとうございました。

飲食業40代男性

実際若い子たちの素行が悪いニュースなど悪目立ちする今の世で、一番に目を向けなければならないのは国だなと言うのが率直に出てきた感想です。教育に問題があると言いますが、結局国が講師の様な考え方を受け入れたり、教育に目を向けなければ学校も変わらないと思えます。親が声を上げてモンスターペアレントなどと言われてしまうので。先生のお話は大変ためになると思いましたし、学校よりも一人の親としてまず子供と向き合おうと改めて思えました。

建築業50代男性

自分の子供も手が離れている現状になりこの講演を聞いて思ったことは、私がかが子にもっとしてやれることがあったんじゃないかなということでした。言葉をかけて話を聞くと言う事がいかに大事な事かと言うことも改めて考えることが出来ました。ありがとうございました。

主婦30代女性

私は第二子が生まれて間もないのですが、工藤先生のことはテレビで見て知っていました。一度ちゃんとお話を聞いてみたいなと思っていたところ、たまたまラジオで工藤先生が講演会をするというのを聞いて参加しようと思えました。今の教育の現状と自分の子育てを振り返り、先生のお話を参考にしてこれから子供たちと成長していきたいと思えます。

保育士20代女性

怒られるからやっちはダメって教えられるよりも、間違えて、失敗して何がいけなかったかを考えるという経験を積ませることがとにかく大事なこと、自己肯定感を高めることが出来ることなんだと学ばせていただきました。そのために失敗しても大丈夫だよ！って言ってあげられる環境を作ってあげることが大切なんだと思えました。大変勉強になりました、ありがとうございました。



皆様のお声をお聞かせ下さい！！

私たちはこれまでに様々な広報誌を発刊してまいりました。今後、今まで以上にこの広報誌を盛り上げ、私たちの事業運動・活動を知っていただきたく存じます。そのために、今後私たちの運動・活動の参考とするべくアンケートを実施させていただくこととなりました。大変お手数なことかもしれませんが、アンケートの記入にご協力をしていただけましたら幸いです。どうぞ、よろしくお願いたします。

広報渉外委員会
委員長 堀川 武尊

